

## (2) 工事の苦勞と工夫

岩色疏水が開かれるまでの歴史を年表にまとめてみました。いろいろな工夫がわかりました。

西曆	年号	できごと
1564	永禄7	畠山六左エ門秀富が石川原の地をもらいうけ同志とともに開たくし、苗代田村（岩根）岩色の五百川に堰をきずき開田し、水を引いた。
1565	永禄8	石川原をあらためて関下村とよんだ。
1566	永禄9	関下村完成、米のとれ高5斗5升。
1615	元和元	秀富の子、宗富が岩色疏水を57町20間（約6.25km）下流にのばした。このため水田がいたるところに開かれ、荒井村、仁井田村が独立村となり、三本松、沢田の部落もできる。
1623	元和9	宗富、この年の秋より3年間に三本松新田111石2斗2升を開いた。
1668	寛文8	宗富の孫、直富が岩色の大岩に152.7kmのトンネルをほり堰場を上流にうつした。この工事に10年かかった。この堰場によって苗代田村300石、関下村541石5斗5升、荒井村934石7斗3升、沢田83石5斗9升、三本松111石2斗6升、仁井田村400石、青田村200石の水田に水を送ることができた。さらに、仁井田村吹上、本宮南町にわたる100石の水田を開くことができた。この大工事によって2669石8斗あまりの水田を開くことができた。 1石=10斗=180 <small>匁</small> 1斗=18 <small>匁</small> 1升=1.8 <small>匁</small>

- 大岩トンネルをほりました。
- 木のくい、竹かご、石がきなどをくみあわせて、せきを作りました。
- ろうそくをもやして、めあてをきめ、ほっていきました。
- 穴の中で火をたいて、岩をねっし、急にひやしてこわしやすくしました。
- 高さをそろえるため、サイフォン式用水法を作りました。
- 松の木のといをつないで、用水路を作りました。